

## 協同組合の理論の研究について

中 川 雄一郎

現在、協同組合の理論は、主として、組織論、運動論、経営論として展開され、またこれらの理論をめぐって論争がおこなわれている。協同組合の理論を確立するために、もっと正確に言えば、協同組合の本質を規定するためには、協同組合運動の現実を念頭におきながら、多面的視角というか、多面的な問題設定が必要であろう。その意味で、組織論、運動論、経営論が活発にとりだされていることは、協同組合の本質規定接近へのさまざまな研究努力の現われといえよう。

しかし、組織論、運動論や経営論にしても、協同組合運動の歴史、協同組合思想の歴史がいささか軽視されているように私には思える。協同組合の理論に歴史的視点が欠けていては、協同組合の発生 of 必然性の論理展開を深めることが困難になり、従ってまた、その成長・発展の軌道を説こうとする場合にも説得性を欠くことになるであろう。

協同組合の理論の研究は、かかる意味において、歴史的視点と抽象的、理論的視点との統一を論理展開の梃子としていかねばならないであろう。